

みんなを守る、災害に強いまち



活動実績

平成28年 熊本・大分地震
 平成30年 西日本7月豪雨災害
 令和3年 熱海土石流災害
 令和6年 能登半島地震
 令和6年 能登半島豪雨災害



町内で訓練できる場所を探しています!



見えないのちも
 見つけ出す力

広陵 ドッグスクール

広陵町と令和3年度に災害救助犬の出勤に関する協定を結んでいます。地震や土砂崩れなどの現場で、警察・消防と連携し、人間より数万〜1億倍優れた嗅覚を用いて瓦礫や土砂に埋もれた生存者を捜索・発見する訓練をしています。代表の松川さんは、日本では数少ないマントレーリングドッグ(行方不明者捜索犬)育成の第一人者でもあり、大きな災害から高齢者の行方不明の捜索など幅広く活躍されています。

真美一 まちづくり協議会

主な活動

防災、防犯、交通安全、
 高齢者支援など

防災訓練は顔の見える関係づくりの場。炊き出しやゲーム、ドローン実演などを取り入れ、子どもから大人までが参加しやすい工夫を重ねています。災害時は自宅避難を推奨しつつ、一人暮らしの高齢者に避難所を優先するなど、地域で支え合う体制を築いています。



顔の見える関係が、
 いざという時の力に



緊急出動



水消火器訓練



自警団消防団による 初期消火訓練



文化財防火デーの制定は、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。この事件は国民に強い衝撃を与え、火災などの災害による文化財保護の危機を深く憂慮する世論が高まり、翌25年に文化財保護の統括的法律として文化財保護法が制定されました。木造建築の文化財は、ひとたび火災が起きると復元することがとても困難です。文化を守る備えは、私たちの暮らしを守ることもつながっています。令和8年は、讃岐神社で防火訓練が開催されました。消防団や自警団、地域の方によるバケツリレーでの消火訓練や、文化財を外へ運び出す訓練などを行いました。

「文化財防火デー」です。

毎年1月26日は

地域がひとつになる、

広陵かぐや姫まつり

竹灯りに揺らぐ幻想的な灯火。平成7年から始まった「広陵かぐや姫まつり」は、竹取公園で2日間にわたって開催される、人気のイベントです。



町民が力をあわせて

空高く打ち上げる花火

かぐや姫まつりのクライマックスでは、町内の会社や個人の皆さんの協賛で大きな花火が打ち上がります。

みんなで盛り上がる

ステージパフォーマンス

日々の練習の成果を披露するなんでもパフォーマンスや町内の様々な団体が日頃の活動内容を発表するブース。親子でコスプレして楽しめるハロウィン行列など賑やかな行事が盛りだくさん。



魅力の模擬店

町と交流のある市町村からの物産展や各種模擬店などもたくさん出店します。



竹取物語発祥の地 讃岐神社

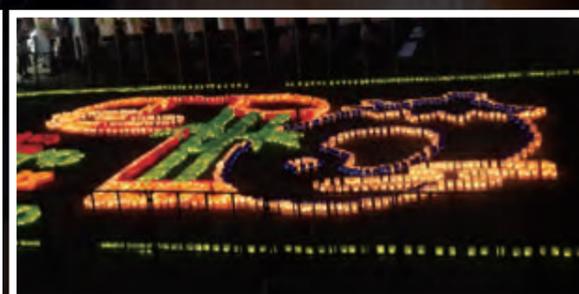
▲広陵町大字三吉元赤部方328番地



『源氏物語』の中で、「我が国最初の物語」と書かれている『竹取物語』。竹取の翁の名前「讃岐造(さぬきのみやつこ)」や、かぐや姫に求婚する五人の貴公子の名前と身分などの内容から、「翁の住まいは大和国広瀬郡散吉(さぬき)郷(現在の広陵町)である。」と世に発表されたのは昭和28年でした。以来今日まで岩波・新潮・講談の各社の『竹取物語』の注釈にこの学説が引用されています。町にある讃岐神社は、平安初期につくられた全国の神社一覧『延喜式神名帳(えんぎしきじんみょうちょう)』にも記載されている古社です。讃岐氏ゆかりの翁がこの地に住んだ、いにしえを偲ぶかのように、神社は今も巢山古墳の近くの竹やぶに囲まれて、ひっそり鎮座しています。

心に残る灯り

「観月の灯火の点火」。薄暗い空間に灯りが点いていき人々を魅了します。





広陵町

イベントガイド



つながり ひろがる
文化芸術の輪

秋のイベント

広陵町文化祭

年齢などを問わず、作品の展示やステージでの発表などを通じて、誰もが文化芸術に触れることのできるイベントです。



いつまでも楽しく
健やかに！

秋のイベント

広陵町健康福祉大会

9月の「高齢者健康福祉月間」として開催される行事です。広陵町明太鼓の演奏や芸能ショーなど、お楽しみなイベントが盛りだくさん！



「いのち」の
大切さを学ぼう

夏のイベント

いのちを守るまちづくり 体験型イベント

親子連れや若者、高齢者など多くの方が参加します。体験型のイベントを通して、食育や運動、防災といったさまざまな視点で「いのち」の大切さを学ぶことができます。



町の無形民俗
文化財

夏のイベント

たてやままつり 立山祭

夏の終わりを告げる地藏盆。毎年8月24日に大垣内の専光寺では、地域住民によって立山(作り物)が飾られる伝統行事「立山祭」が行われます。これを立てないと「不治(ふじ)いる」(病気や事故が起る)と伝えられ、その年に話題となった出来事や有名になった人物を取り上げた立山を作り、大垣内公民館や立山会館、光蓮寺、浄教寺などに、面白おかしく飾り付けられます。



みんなで走る
広陵ロード

冬のイベント

広陵町マラソン大会

町民を対象としたマラソン大会。各学年、年齢に応じて行われます。寒さをもとせず、皆さんが頑張っている姿に応援にも熱が入ります！



気軽にスポーツを
はじめよう！

秋のイベント

広陵町 スポーツフェスティバル

毎年11月に開催されるスポーツフェスティバル。誰でも気軽に参加できるスポーツ体験や競技、アクティビティを多数用意しています。スポーツを通じて健康づくりと地域の絆を深める家族みんなで楽しめる充実の一日です。



靴下の町
ならではの行事

春・秋のイベント

靴下の市

毎年4月・11月に開催される「靴下の市」。広陵町が誇る靴下に、会場は大いに賑わいます。ぜひ広陵町の靴下の良さを手に取って感じてください。



箸尾のだんじり

勇壮なり

秋のイベント

とだてまつり 戸閉り祭

前方後円墳の後円部に本殿があり、古墳全体が神社の境内にある櫛玉比女命(くしたまひめのみこと)神社。戸閉り祭は、この古社で江戸時代から受け継がれる伝統の祭礼で、11月初旬に開催されます。祭りの時期が晩秋で寒いので、各家の戸を閉めて行ったことからその名が付いたと言われてます。初日の夜には、4大字(南・萱野・弁財天・的場)のだんじりがにぎやかに神社へ入る「宮入り」が行われ、その勇壮な姿に、祭りは最高潮を迎えます。



くつしたの町

広陵町のあゆみ

靴下づくりの始まり

広陵町の靴下産業は明治43年に馬見村 足相の吉井泰次郎氏が手回し型の編立機を導入した工場を作ったことから始まります。初期は農家の副業であった靴下づくりは、近代の機械化の中で常に最新技術を導入し、大正6年には年間28万足だった生産量は平成元年には1億足以上に成長し「靴下生産量日本一」の町となりました。



世界を席巻した

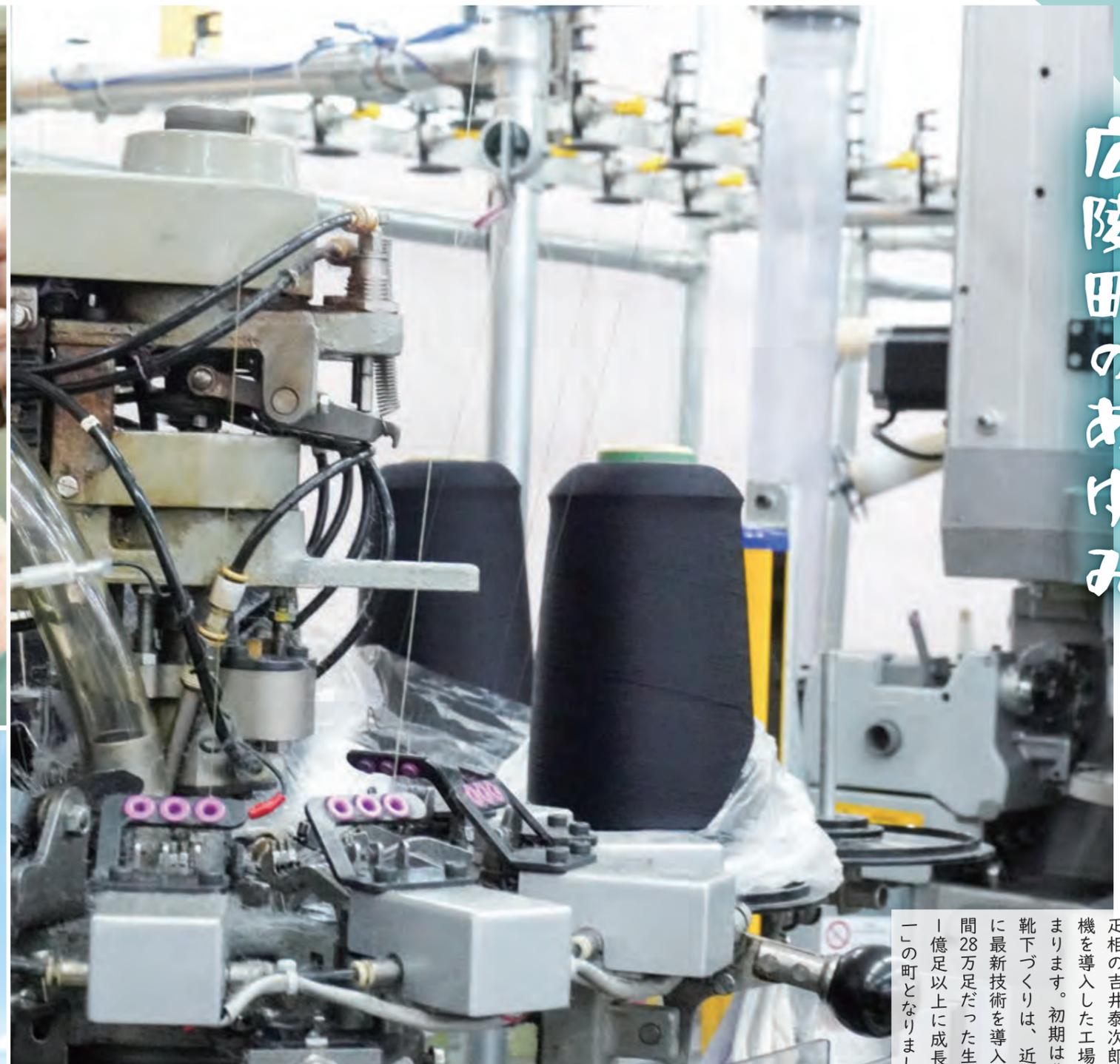
広陵町の靴下

明治・大正・昭和初期の洋装の多くは制服でした。靴下職人も学生服や軍服用の靴下づくりを中心に技術を培い、戦後に訪れた高度成長期には、その高い技術力と安定した品質を求めて世界中からバイヤーが訪れました。広陵町の靴下産業は、国内だけでなく、海外ブランドを含む世界の靴下づくりを卓越した職人技術で支える存在になりました。

地域で連携して

支える靴下産業

広陵町は100年の歴史を誇る地場産業を次世代に受け継ぐため、さまざまな支援事業に取り組んでいます。また、広陵町産の各社オリジナルブランド靴下が購入できる「広陵くつした博物館」(グリーンパレス階)があり、「靴下のまち」の発信拠点となっています。



妥協なき技術と開発力で、町の靴下産業に恩返しする

サントウニット株式会社

昭和51年創業のサントウニットは、高品質な靴下づくりを半世紀にわたって続けてきました。「安価な大量生産品は手掛けない」「手間を嫌うな」という信念のもと、付加価値の高いシースルー靴下や、心地よさを高める「最強素材」として注力するシルク製品をメインに製造しています。



ブルモン

自社ブランド「BLUMON(ブルモン)」では、冷え症に悩む人々の心まで温める製品を展開。お客様の熱い要望を受け、工場隣接のショールームもオープンしました。高い技術力と情熱を武器に、「広陵町の靴下を世界に発信する」という夢に向かって邁進しています。





創業から63年、
信頼の技術で医療を支える

昭和38年に広陵町で創業した広陵化学工業株式会社は、60年以上にわたり、誠実にもものづくりを続けてきました。プラスチック成形技術に加え、温度・湿度や微粒子まで厳格に管理するクリーンルームと医療機器の製造・品質管理体制を強みに、再生医療など高度な医療分野にも挑戦。令和7年には創業者の念願だった新工場を広陵町に完成させました。大学や企業との共同開発を進める一方、オープンファクトリーを実施するなど、町の人々と交流し、地域のものづくりを未来へつなぐ企業を目指しています。



金魚すくいのポイの
生産量日本一

最近では各種レトルト容器などの食品用容器や採血管などの医療用器材を扱う事業者も増えていきます。また、金魚すくいで使用されるポイも町内の事業所で生産されており、シェア日本一を誇っています。金魚で有名な大和郡山市で毎年開催されている「全国金魚すくい選手権大会」では広陵町産のポイが使用されています。



町内中小企業
小規模企業
を
ターゲットに
ワークショップ
を開催しています！

自社での自慢の取り組みや、不足していることなどを発表したり、今後取り組んでみたい施策について意見交換したりなど、がんばる企業を応援するワークショップが随時開催されています。



安全で高品質な
プラスチック



プラスチック製品
づくりの始まり

町内でプラスチック製品づくりに着手したのは昭和30年代前半のことです。当時は家内工業的な事業所が数軒あった程度ですが、その後、急速に同業者が増えていきました。昭和40年頃は、作れば売れる時代。日常生活の場にもプラスチック製品が急増しました。業界にも高性能の機械が登場し、積極的な設備投資が進められるようになります。これによって、品質は目覚ましく向上し、プラスチック産業は広陵町にしっかりと根づきました。昭和62年には、業界の振興をめざす同業者の組合「業者会」が発足。平成5年にはこの組合を再構成して、「広陵町プラスチック組合」に発展しました。

町の産業を支える
さまざまな機関

一般社団法人
広陵町産業総合振興機構



愛称
なりわい

広陵町の産業・農業・観光といった各分野が持つ特色や強みを生かした地域活性化を図るため、行政とは異なる組織（一般社団法人）として設立されました。「町をまるごと商品化」することにより、町内の経済循環（生産・消費・収入）が更に活性化し、持続可能な経済成長、雇用、消費を生み出すことを大きな事業目的としています。



広陵町商工会

広陵町商工会では、中小企業や小規模企業の皆さんが安心して事業を行っていただけるような役立つ情報を提供しています。また、経営指導などを通じて事業者の皆さんをサポートします。

